

第8節 健全な青少年を育成する

■現状と課題（前期基本計画までの成果を踏まえて）

近年、低年齢化している少年の凶悪犯罪の続発などは深刻な状況にあり、その背景には、社会環境の悪化と社会全体のモラルが低下するとともに、家庭を含めた人間関係の希薄化と社会の基本的なルールへの認識が弱まるなど様々な課題が指摘されています。

このような青少年の非行問題を含めた子育ての問題への対応は、家庭での親の果たす役割が重要であります。家庭だけでは解決できるものではなく、地域全体で見守り、支援をしていく社会のあり方が問われています。また、すべての子どもの人権が尊重され、子ども自身の育つ力、家庭で育む力、地域全体で支えあう力が一つになり、健やかに生まれ育つ社会環境を再構築していくことが重要な課題となっており、市や青少年育成団体が開催している事業においても、多くの参加者があり、市民の関心の高いものとなっています。

本市では、京都府や城陽警察署等の各種団体との連携により、市内の店舗等への立ち入り調査を行うなどの取り組みを行っていますが、今後も継続していく必要があります。

社会性や自主性を育む体験活動などの施策の充実を図るとともに、施策が一層周知できるように、広報・啓発活動に工夫・改善を図ることが必要です。

また、青少年健全育成市民会議との連携・協力は必要不可欠であり、青少年の社会的自立や社会参加、体験活動への支援を市民との協働で実施していくことが必要です。さらに、青少年問題について市民の理解を深め、健全育成への施策を計画的に進める必要があります。

■基本方針

- 青少年を地域で守り、育てる意識などを根付かせることにより、地域ぐるみで青少年を健全に育成するまちをめざします。
- 青少年の社会的自立や社会参加などを促進することにより、心身の健全な育成を進めるまちをめざします。
- 青少年の健全育成に係る施策を中長期的な視点に立って、計画的かつ総合的に推進していくまちをめざします。

■まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値 (平成22年度)	5年後の目標 (平成28年度)	めざすべき 目標
青少年健全育成施策への参加者数	各種事業の参加人数	人	2,558	2,990	↑
青少年が安全で健やかに育つ環境が整っていると感じる市民の割合	まちづくり市民アンケート結果	%	44.6	48	100

■主な施策の展開

(1) 社会環境の再構築

人間関係のつながりや社会のルールについて青少年が理解を深めるため、親としての役割、地域としての役割をお互いが自覚し、協力しあう社会環境の再構築に努めます。

(2) 青少年健全育成体制の充実

青少年の健全育成に係る施策を中長期的な視点に立って、計画的かつ総合的に推進していきます。また、青少年育成団体などが実施している取り組みを周知するため、広報活動の充実を図ります。さらに、城陽市青少年健全育成市民会議の各種の活動への支援を行うとともに、地域の青少年育成団体と協働して、青少年の社会参加への支援を進めます。

(3) 豊かな体験活動の推進

青少年の社会性や自主性を育むため、スポーツ活動や文化活動などへの支援を行います。また、青少年の健全育成に対する理解を深めるために、講演会の開催など教育や学習環境の充実に努めます。

■市民まちづくりワークショップからの提言（平成18年）

市民の役割（例示）

- 家庭において子どもの基本的な生活習慣の形成を徹底する。
- 様々な人に出会う交流の機会や多様な体験活動に積極的に参加する。
- 親が子育てについて学び、考え、自分の子育て観をつくり、親としての自覚を持つ。
- 地域の子どもは地域で守り育てる意識を持つ。
- 子どもの育成に関する学習機会に積極的に参加する。

■PR施策

○青少年意見発表会

青少年の社会参加と、青少年への理解を深めることを目的に、昭和58年度から毎年10月に開催しています。応募対象者は、市内在住の小学5年生から30歳未満の青年までです。

運営委員会において決定された口頭および誌上発表者の作品は、年度末に発行する冊子「青少年の声」に掲載し、図書館・各コミセン等の公共施設への配架や関係者への配布を行っています。



【「青少年の意見」発表会】